

広報

ひがしゆい

豊かな自然みんなで

拓く町

伸びる町

1989=10
No.415

平成元年10月1日発行・毎月1日
編集・発行 / 秋田県東由利町役場総務課

- 第2回東由利町健康推進大会
並びに愛育会15周年記念大会……2
- 9月定例議会……6
- 昭和63年度決算……8
- 感動の輪をひろげる
心の交流会から……10
- まちかどトピックス……12
- みんなのひろば……14

▶ バインダーによる稲刈り作業(島)



収穫の秋



▲稲の収穫がいよいよ始まりました。干ばつの被害も心配したほどではなく、農家は豊作に大きな期待を寄せながら農作業に精を出しています。写真はハサ掛け作業(須郷田)

▶ 農作業の合間のいっぶく(高戸屋)





三五〇人が参加した第二回東由利町健康推進大会並びに愛育会十五周年記念大会

みんなで広げよう健康の輪を！

第2回東由利町健康推進大会 並びに愛育会15周年記念大会

第二回東由利町健康推進大会並びに愛育会十五周年記念大会が九月十三日健康増進センターで開かれ、愛育班員や関係者、一般町民など合わせて三百五十人が参加しました。

大会は午後一時過ぎに始まり、初めに、保健予防事業功労者や無傷病の国民健康保険税完納世帯などに畠山町長が表彰状や感謝状、賞状を贈呈しました。続いて畠山町長があいさつに立ち、「健康は町づくりの基盤。一連の町施策は、町民憲章の「身体をきたえ健康で明るい町をつくります」に基づいて進めている。本町愛育会は全県下に誇りうる組織として成長し、これも会員の理解と協力によるものであり深く感謝する」と述べました。

また小笠原亮子町愛育会長が、「設立十五周年を迎えることができましたのは、諸先輩たちの苦勞の積み重ねと町保健婦の献身的な指導のおかげ。ますます進む高齢化社会に向かい、諸先輩たちが立派に築いてきた愛育会の、



保健予防事業功労者など20人に表彰状や感謝状、賞状を贈呈

更に充実した活動の展開に努力していきます」と力強くあいさつしました。

この後「私の愛育班活動から」と題し、杉野文子さん（蔵・法内地区愛育班）、古関君子さん（老方地区同）、高橋京子さん（同）の三人が活動体験を発表。杉野さんは「昨春から班員になり地域の皆さんとのふれあいのほか、研修会などで勉強になったことがたくさんあった。しかし仕事の都合で参加できないこともあり、働く婦人が増えていく現在、地域活動を進めていく

受賞者

●保健予防事業功労者（表彰状）

長年町保健事業へ協力し、保健意識の啓発活動や町民の健康づくり推進に貢献されました。

- ・小松サグミさん（宮の前）
- ・伊東トクミさん（蔵新田）
- ・渡辺 イ子さん（田代）

●同（感謝状）

愛育会長として行政と連携をとり、町民の健康増進に貢献されました。（初代～四代会長）

- ・畑山マサエさん（島）
- ・加藤キヌ子さん（横渡）
- ・小野 行子さん（蔵新田）
- ・五十嵐恵美子さん（上通）

●体力健康づくり推進功労者（同）

体育指導委員として永年にわたり、スポーツ振興を通し心身の健康づくりに貢献されました。

●献血事業功労団体（同）

献血事業に会社ぐるみで協力され献血推進に貢献されました。

●無傷病、国民健康保険税完納世帯（賞状）

四年以上連続して国民健康保険無受診で、かつ国民健康保険税を完納されている世帯です。

うえて新たな問題が出てきているように思う」と述べました。
また古関さんは、「愛育班は“ひまだれが多い”ということを知ることがあった。確かに会合や訪問などで時間がとられる。しかし会合などでは学ぶことが多く、自らの健康や生活について考え直させられることしばしば……。今では会合にも積極的に出席するようになった」と述べました。

むのたけじ氏講演要旨



三人の愛育班員が日ごろの活動体験を発表

そして高橋さんは、「会合では健康のことだけでなく、子育てや老後、夫婦や嫁・姑の話など様々で、巻き寿司を作り和気合い合いのうちに会を終えたこともあった。愛育班活動で学んだことを家族の健康の“肥やし”に、次の方へバトンタッチしたいと思う」と述べました。
この後、社会評論家の、むのたけじ氏が『明るく、たくましく生きるために』高齡化社会を

さわやかに生き生き過ごすためのコツ」と題して記念講演を行いました。（講演要旨左記）
最後は嶽石アヤ子町愛育会副会長が、「自分の健康は自分で守るために、年に一度は健康診断を受けましょう」「郷土の自然を大切に、快適な生活環境づくりに努めましょう」の二つの運動を、組織的、継続的に展開することを誓った「大会宣言」を発表し、大会を閉じました。

- ・七年 齋藤キチヨさん（石高）
- ・五年 鈴木 亮一さん（袖山）
- ・四年 佐藤 末藏さん（田代）
- ・同 柏原 健一さん（新町）
- 健康づくり標語入選者（同）
- ・佐々木ナミさん（大 琴）
- ・阿部 里美さん（下郷分校）
- ・横山奈津子さん（東由利中）
- ・太田 陽子さん（同）
- ・大沼 美香さん（高瀬小）
- ・長谷山哲也くん（八塩小）
- ・小松えり子さん（同）

明るくたくましく生きるために ～高齡化社会をさわやかに、生き生き過ごすためのコツ～

人生五十年時代に？

医学の大変な進歩で、人間の寿命が「人生五十年時代」からここ三十年間でみるみる伸びてきました。しかし現在「人生八十年時代」と呼ばれる生き方をしているのは明治、大正生まれの人たちで、それと同じような生き方を、特に戦後の高度経済成長期に生まれた方たちにできるでしょうか。

我々の当時は貧しく、いろいろな物をポリポリ歯でかじり、何種類もの自然のものを食べてきました。しかし近ごろは八・九割が加工食品で、このような食

生活の影響を受け小学五年で早くも老化現象が現れている子どももいるようです。朝昼わけもなくあくびする……これは六十五歳以上に見られるものです。そういう子どもが本当に八十歳まで生きられるでしょうか。ある医者は人生五十年時代のときが来るかも知れないと言っています。

“一病息災”で長生き

健康は人間の宝物だといえます。しかし一つも病気にからまないで人生を過ごす人は、めずらしいのではないのでしょうか。私は少年、青年時代に病氣らし

い病氣をしたことがありません。しかし年をとるにしたがいあち

（次ページへ続く）

むのたけじ氏略歴

大正四年仙北郡六郷町生。東京外語大学卒。昭和十一年二十一年新聞記者として主に朝日新聞社・社会部で活躍。海外にも特派。敗戦と同時に退社し、昭和二十三年横浜市で「たいまつ新聞」を創刊。地方の視点から農村問題、教育問題を中心に評論活動が続け現在に至る。著書は「詩集たいまつ」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲなど。



講演で熱弁する、むのたけじ氏



むのたけじ氏の講演に熱心に耳を傾ける参加者

(前ページから)

ここに障害がおき、そうやって始めて自分も生身の人間であることがわかりました。そして長生きは無病息災ではなく一病息災：一つの病気をもち自分の体に注意する人が長生きできるのだと実感しました。

ボケは老人と無関係

年をとるといことは何を意味するのか：年取った人たちの健康な生き方とはどういうものなのでしょうか……私は、社会経験者としての存在を社会が認め、自分もその気になって、命ある限り、自分のため、人のために尽くすという気持ちが必要だと思います。それによって始めて健康になろうという意欲が出るし、心も体もすこやかな人間らしい人間を保てることにな

目的と目標を持ち明るく朗らかに

年老いてからの人生を生き生きと生きるためには、三十、四十、五十代の今の人生を充実させ、何のために生き、年取ったらどういう人間になりたいかという、目的と目標を持つことです。そうすれば「人生六十から」ということに本気で実感が持て、それが本当の意味の「健康」につながるのではないかと思います。

るのではないのでしょうか。

ところが現実はどういう方向に進んでいせん。マスコミは老人の話題になるとボケのことがばかりで、逆に老人はその年になるとボケるのではないかという不安を持つことになります。それが若い人たちの年をとることへの不安をかきたて、老人のイメージを悪くしています。

ボケは実は老人と深い結び付きのある病気ではありません。年をとるからボケるのではなく、ボケる原因は四十～五十歳ころにできていて、そのタネが六十～七十歳で芽を出すのではないかと言われています。社交性にとぼしい人、怠け者、不潔な人、孤独におちいる人、ひがみ根性の強い人……こういう要素を持つて破れなかった人がボケにかかりやすいと言われています。

人間はまじめだけでなく、朗らかさや明るさがないといけません。うれしいときは誰でも朗らかに笑います。しかし人と人との間に亀裂が生じている時だからこそ明るく振る舞うことが必要なのです。これは難しいことです。努力すればできます。自ら明るく、朗らかに……これが健康で豊かな生活を支える一番大切なことだと思います。

あなたの一言が社会に生きる

行政相談週間・10月15～21日

要望や苦情があれば……

国が行う仕事に対して、要望や苦情・意見を住民から聞き、その解決や実現を図るのが「行政相談」です。

「苦情はあるが役場に行って直接は言いにくい」「どこへ申し出たらいいのかわからない」などといったことはありませんか？

こんなときのために設けられているのが「行政相談委員」です。委員は法律に基づいて総務庁長官から委嘱された民間の有識者です。昭和六十三年度の行政相談は全国で二十三万件ありましたが、七割以上の約十七万件が行政相談委員の受けたものでした。

電話でも手紙でも

本町の行政相談委員は阿部寅静さん(蔵)です。相談は無料で、匿名でも受け付けています。口頭、電話、手紙のいずれでもかまいませんのでお気軽にご利用ください。

☎・六九—三一一四

秋田県 消防大会

総合で第3位に入賞 小型ポンプ3位、ポンプ車4位



県消防大会に出場し好成績を修めた本町消防団

第二十六回全県消防訓練大会で、本町消防団が小型ポンプ操法で第三位、総合で第三位という好成績を修めました。

同大会は九月七日由利郡岩城町の新県消防学校放水訓練場で、県消防協会の十支部の予選を勝ち抜いてきた二十の消防団、婦人消防隊が出場して開かれたもので、本町から本莊市由利郡支部大会で小型ポンプ操法で優勝した二分団二部二班（高橋誠一班長）と、ポン

プ車操法で優勝した五分団一部一班（石綿喜代隆班長）が出場しました。

大会で本町消防団員は、雨にもかかわらず駆け付けた五十人余りの応援団の声援を背に、これまで磨き上げてきた技術をミスなく披露、盛んな拍手を浴びました。その結果、小型ポンプ操法で①鹿角市消防団八幡平第一分団②昭和町消防団第一分団に次ぎ第三位に入賞、ポンプ車操法で①鹿角市消防団十和田錦木第一分団②雄物川町消防団第三分団③大湯村消防団第三分団に次ぎ第四位、総合で①鹿角支部②男鹿・南秋田支部に次ぎ第三位に入賞しました。

町有林を活用し、都市と山村のふれあいを深め町活性化に役立てようと、八月一日から募集した「ふるさと出会いの森」は九月二十日で締め切られました。この結果、応募口数は募集した八十五口の二倍近い百六十口にもなるなど、大きな反響を得た結果となりました。

県からの申し込みもあり「これを機会にふるさととのパイプが一段と太くなった」との手紙を添え申し込まれた方もいました。申し込み者の分析では、都道府県別では①県内六十一人②埼玉二十四人③神奈川二十二人

ふるさと出会いの森 全国から百六十口の応募 抽選で出資者を決定

④東京二十一人⑤千葉九人、職業別では①会社員五十三人②無職二十四人③自営業二十三人④公務員十四人⑤主婦同、年齢別では①五〇～五九歳四十五人②四〇～四九歳同③三〇～三九歳二十五人④二〇～二九歳十二人などとなっています。町では希望者が多いため、抽選で出資者を決定することになっています。

東由利中学校 設立20周年記念 東中祭、記念式・祝賀会へのご案内

記念事業

10月21日(土)

1・記念東中祭

9:00～12:00 ステージ発表
11:00～14:00 バザー

10月22日(日)

2・式典、祝賀会

10:00～11:00 記念式典
(東中体育館)
11:20～11:50 アトラクション
(合唱と吹奏楽演奏)
12:00～15:00 記念祝賀会
(有鄰館二階)

記念事業関係各位には改めてご案内を差し上げておりますが、式典、祝賀会に参加希望の方は、**十月五日**までに東由利中学校事務長・佐々木文一先生にお申し込みください。電話で結構です。会費(二千五百円)は式当日に申し受けます。

町民 各位

東由利中学校設立二十周年記念事業
実行委員長 小松 悌之助
東由利中学校長 河本 正徳

昭和四十四年四月一日に下郷、玉米両中学校が統合し、東由利中学校が開校してから今年で二十周年を迎えました。この節目の年を記念し、このほど二十周年記念事業を計画しましたところ、町当局はじめ町民多数の方々のご厚情をいただき、協賛事業が順調に進められていることに深くお礼申し上げます。つきましては、次により記念事業を開催しますので、町民多数の方々にお集まりをいただき、二十周年をお祝いくださいますようご案内申し上げます。

平成元年十月

9月定例議会

九月定例議会が九月十一日から九日間の会期で開かれ、町長の行政報告、一般質問のあと平成元年度一般会計補正予算案、財産区管理委員選任案など八議案を可決、昭和六十三年各会計決算認定案を承認し閉会しました。概要は次の通りです。

四氏が町長の考えをただす

一般質問では四氏が農政問題や生活環境整備について畠山町長の考えをただしました。質問と答弁の一部は次の通りです。

問 東由利産「あきたこまち」と「由利牛」の売り込みについて

答 産地間競争、消費者自由選択の時代を予想しながら良質米生産体制を強化してきた結果、

「あきたこまち」と「ササニシキ」の作付けが全体の九〇％を超過しました。売り込み、市場開拓は、農協とのタイアップで、大手米穀業者との取り引きを進めており、本町産米に高い評価が得られているところです。

「由利牛」については、郡内一の子牛販売頭数を誇りながらも、繁殖・肥育の一貫体系の確立には今しばらくの時間がかかるように思われ、まず子牛生産に力点を置き畜産農家の足腰を強くしたいと考えています。売り込みについては先般「特産物フェア」(東京)で「東由利牛」としての販売を試みましたが、牛肉の流通には多くの問題点があり、これらの克服のために、今後いろいろな試みをしていきたいと思っています。

問 次、三男ウターン者の住宅確保について

答 町の実態からすると、次、三男ウターン策というより長男長女の定住策が先決であると考え、そのための生活条件整備を

優先しているところです。公営住宅の建設はいずれ実施することになると思いますが、実情を把握し十分に検討したいと考えます。

問 松沢川水系にかんがい用貯水池の設置を

答 現砂防ダムの活用、将来の必要性などを検討し、県と十分協議していきます。

問 本荘高校下郷分校の将来存続のための対策を急げ

答 根本は入学志願者の問題であり、分校設置の理解のために

干害対策事業補助金など 五千五百万円余りを追加

今議会には干害に対する応急対策事業補助金などを組み込んだ平成元年度一般会計補正予算案など九議案が提案され、いずれも原案通り可決しました。主なものは次の通りです。

昭和六十三年一般会計補正予算

▼歳入・歳出予算にそれぞれ五千五百六十六万八千円を追加、同予算総額は三十億三千四百二万九千円となった。主なものは

▼農業振興費(干害応急対策事業費補助金など)二百八十九万

円▼第三期山村振興事業費(八塩いこいの森吊り橋関係ほか)

五百二十九万円▼農業用施設災害復旧費(工事請負費など)六

議員の皆さんからも町民に対する推奨、入学の働きかけを進めて欲しいと思います。

問 合併処理浄化槽の設置を急げ

答 し尿と生活排水を併せて処理する合併処理浄化槽は、水質

保全、生活環境保護手段として国が昭和六十二年から補助制度を設けて推奨しています。工

費が高いことと浄化思想が浸透していないため普及が進まない

現状にあり、今後一層啓蒙していきたいと思っています。

百三十一万円▼河川災害復旧費(同)三千九百三万円

財産を取得▼ロータリー除雪車一台を二千三百五十六万六千

百円で東北川重建機(株)秋田営業所から購入することにした。

町道金山線緊急地方道路整備工事(二工区)の請負契約を締結

▼指名競争入札により三千四百九十一万七千円で(株)大沼組(蔵新田)と契約することにした。

財産区管理委員の選任に同意▼前委員小松与惣雄氏逝去により

空席となっていた玉米財産区管理委員会の委員に、古関三郎氏

(松柴・六五歳)を新任することに同意した。

町長の行政報告

議会初日に行った畠山町長の行政報告の中の一部について、概要のみお知らせします。

◎ ◎ ◎

稲作▼春以来の水不足で須郷、大吹川地区の水田約一畝が作付け不能となっている。干ばつ被害は八月四日現在の調査で地割れ二〇〇畝、葉枯れ一五畝だったが、その後の降雨で一部地域を除きほぼ被害回復の状態となった。干害被害対策として共同揚水ポンプ購入費に対し県四〇万円、町一〇万円の嵩上げを考へており、個人購入についても町単独で一〇万円の助成を考えている。

転作▼目標面積二四六畝に対し実施面積は二五七・五八畝で一〇四・七畝の達成率となった。

航空防除▼不参加地域が多く、今年度は黒瀨、田代、宿、袖山、土場沢、杉森地区の約三三三畝を八月三日と十六日に実施。

畜産▼七月の子牛販売頭数は七十三頭で一頭平均四十八万八千四百円、八月は六十八頭で四十四万八千七百二十円、九月は五十六頭で五十二万七千円余と、依然として子牛の高値安定が続いている。郡共進会で優等賞を一頭、一等賞を二頭が受賞し県共進会に出品したが、残念ながら上位入賞ができなかった。

任期満了に伴い、畑山昭一氏（島・六三歳）、畑山作喜氏（土場沢・四八歳）を再任することになった。

財産区管理委員
に新しく選ばれ
た古関三郎氏

この中で小松委員長は「歳出は無駄のない支出とその効果の確認が必要で、経常的なものは合理化と節減を基本とし、投資的なものはその結果を客観的に評価し、適切な対応が求められ

るが、概ねその努力がなされているものと評価した」と所感を述べ、提案通りに決算を認定しました。

また基本的な要望事項として「若年層の流出、高齢化、過疎化、後継者、配偶者等の問題が依然として続き、その解消には産業構造の改善が強く望まれる。新たな企業の誘致、既存企業の近代化等を含む安定的雇用の場

の創設に真剣に取り組まれたい」と述べたほか、決算審査過程の指摘、要望事項として次のことからを報告しました。

- ◎縁組世話人報獎金制度中の年齢制限の廃止を。
- ◎未給水地域及びテレビ難視聴地域の実態を調査し対策を。
- ◎地籍調査事業の大幅な遅れを懸念する。早期完了に努力を。
- ◎大平スキー場トイレはシーズン前完成の措置を。
- ◎利用率の下がっている黒瀧診療所の、今後の運営について検討を。
- ◎永慶、みどり両保育園保育料の負担均衡について検討を。
- ◎東由利水道の利用率が年々高

くなつてきているので、ボツメキ水源の溢れ水（余り水）の利用を。



ボツメキの水源池

◎松沢水源付近に泥水流水防止のための貯め池設置の検討を。

◎町発注事業で地元業者に指名のないケースがあるが、極力指名できるように育成に努力を。

八塩いこいの森整備▼吊り橋の下部工事が九月三十一日まで、架橋工事が十一月三十日までの工期で進捗中。

ふるさと出会いの森事業▼九月十日現在百五十口の申し込みで、予定の八十五口を大きく上回り抽選でオーナーを選定することになった。

火葬場建設工事▼進捗率は三〇％となっている。

中学校大規模改修工事▼予定通り進み一、二階内部工事は完成三階内部工事、屋根及び外部工事も十月二十日まで完成する予定。

道路関係は次号でお知らせする予定のため省略しました。

今年は数十年来といわれる日照り続きで、稲作は前年度の冷害に続いて今年は干害でダメか：！お盆が近づくにつれ、そんなタメ息が洩れるようになった。毎日続く旱天を

仰ぎながら三十度を越す真夏日がうらめしい思いであつた。

水不足による出穂のおくれが目立ち……お盆までには穂が出揃うだろうか……という、いら立ちが町内にみなぎり始めたのも無理からぬこと。僅かな水を田圃に引くのに順番待ちをして引き水をしなければならず、守らない人を警戒

し徹夜で田まわりをしなければ
：というトゲトゲしい隣人不信
感が出はじめる状況も現われた。
その昔、水口にマムシが串さし
に立てられたという嫌がらせや
水争いが刃傷沙汰になったこと

水がもう底が見えるという状況に業をにやし……干ばつ対策協議会を設置して鳩首対応策をひねり出すことに努めたが……結果としてはお天道さま待ち……その昔―雨乞い祭り・神社参

祈りながらの盆休みとなった。
それにしても、自然の雨の力はすばらしい。石沢峡の断崖で枯葉となった樺などは、新緑の芽が吹き出して、枯葉変じてにわか新緑と変容し、化粧直しと

井戸からポンプにより取水し、井戸の中でポンプの排気ガスの犠牲となった。一家の大黒柱を瞬時に失う悲惨は例えようもないもので、哀悼惜別の極み、ことばも出ない悲しみ

町隨
長想

干ばつ被害と町民の犠牲に思う

町長 畠山亮二 郎

を聞かされたことを思い出す。
このたびは横手地方でこれに似
たニュースが報道されていた。

拝一の習慣で酒盛りしたことを
 思い出した。お盆前の七日、十
 日の雨は、まさに旱天の慈雨：

なつた。
さて、この喜びも束の間。盆
休み中に暗い悲しい出来事が起

お盆前に二〇〇鈴に及ぶ地割れ、葉枯れが一五鈴という被害状況と、それに加え八塩ダムの

…。山の緑も色濃く深緑となり
稲はタイミンゲのよい雨により
一斉に出穂し、一転して豊作を

こった。評判の真面目な農家の親子が、干田に灌水するために地すべり防止施設としての集水

国語読本にも出ていたこの大自然の営みのことばには、すべて「水」とのかかわりを強く感ずる。水の大切さをつくづく思うこのごろである。教訓を大切にしたい。

25億4千万円

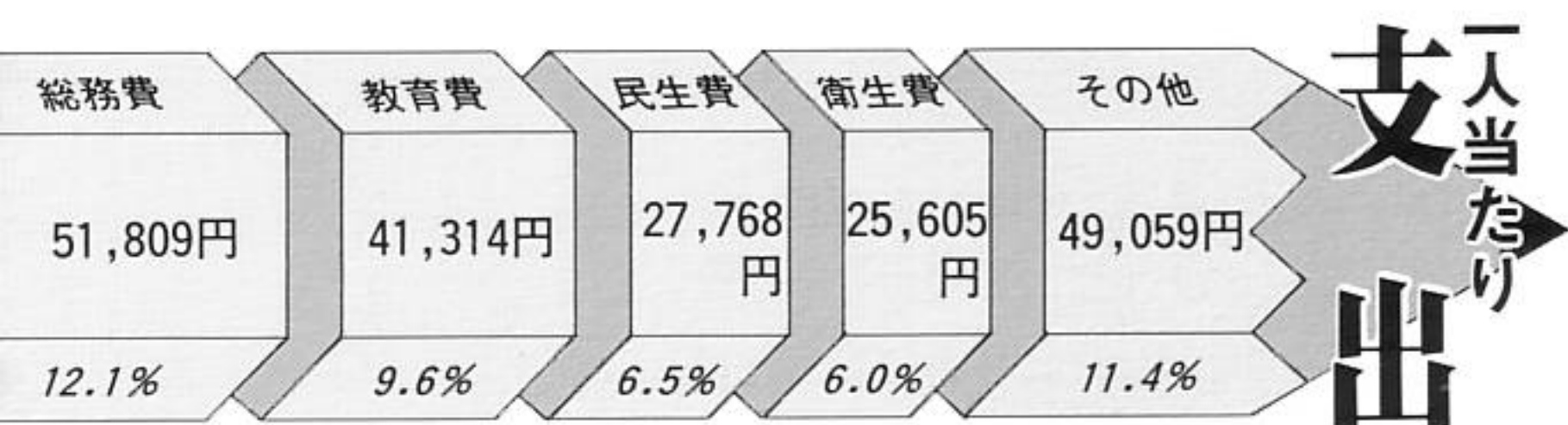
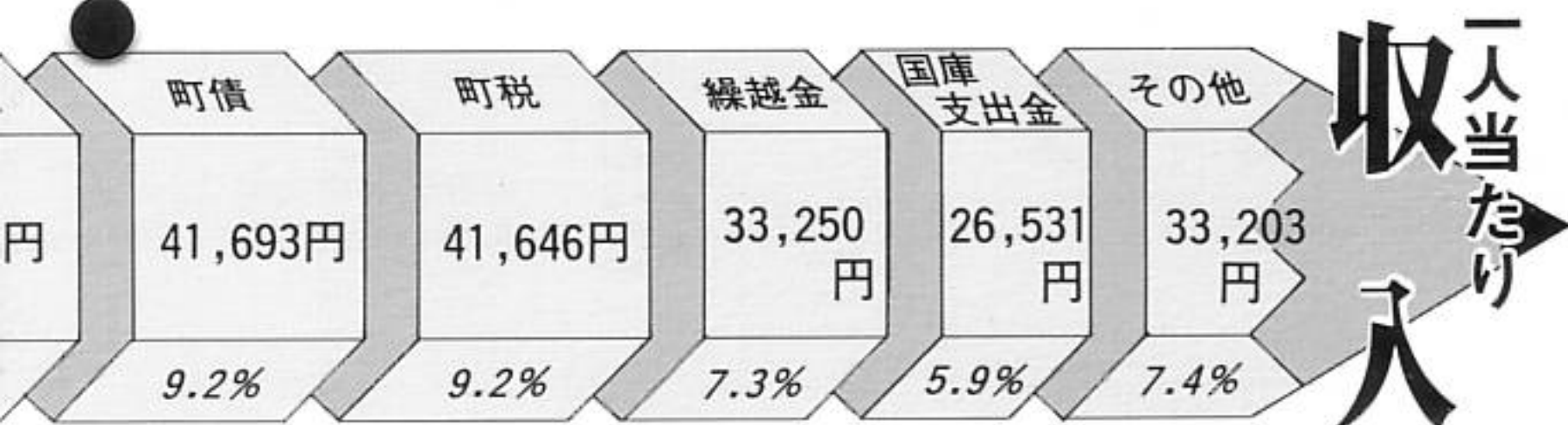
昭和63年度決算



町民一人当たりの支出は43万円

昭和六十三年年度の決算が九月定例議会で認定されました。

町づくりの根幹をなす一般会計では、収入が二十六億九千二百三十一万一千円で、支出が二十五億四千八百四十九万五千円となり、差し引き一億四千二百七十三万六千二百八十六円の黒字となりました。前年度と比べてみると、収入で約一億一千万円（四・二割増）、支出で約一億六千万円（六・九割増）増えました。総額二十五億四千万円の決算を町民一人当たり直すと収入では約四十五万三千円、支出では約四十二万九千円になります。ところでみなさんに負担して



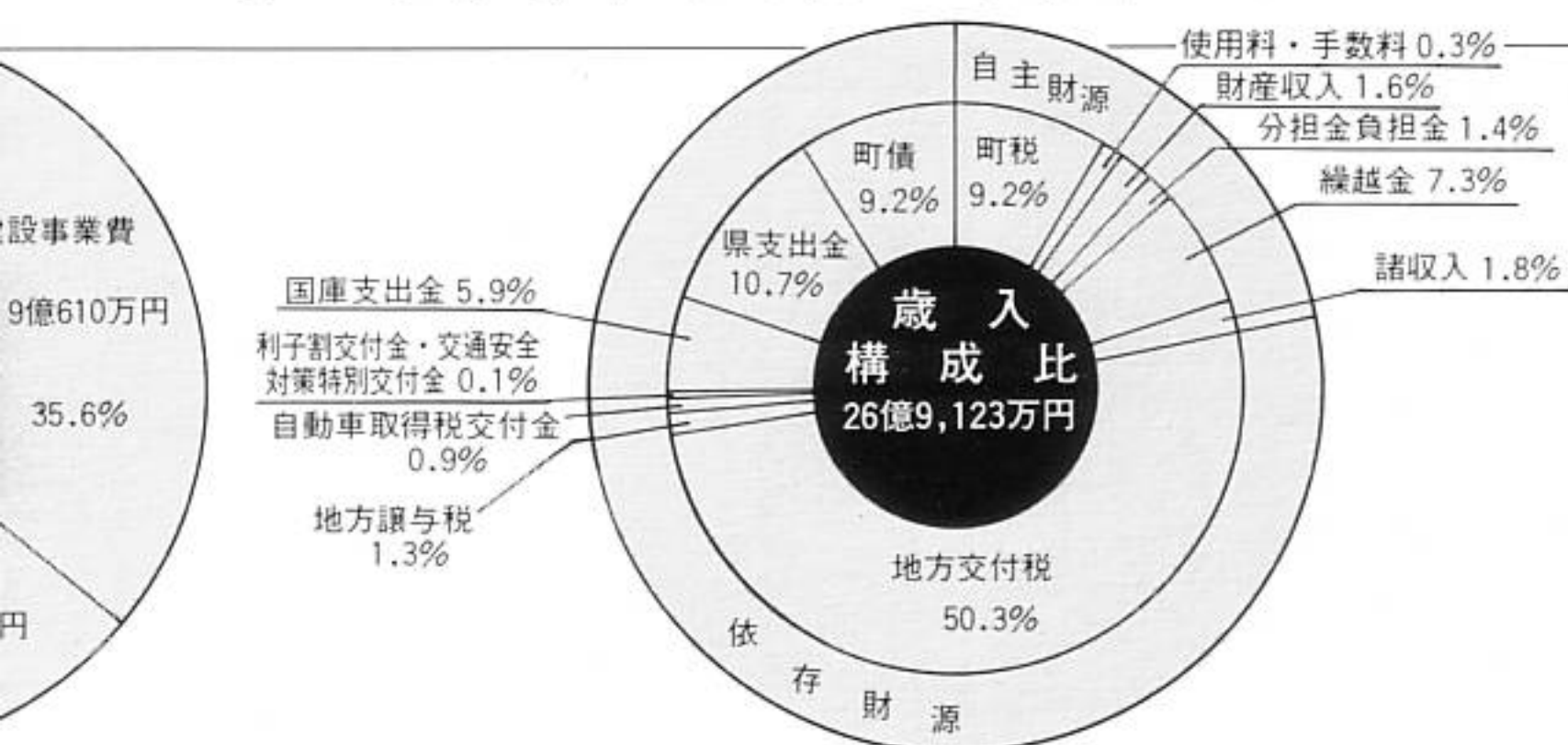
●昭和63年度一般会計決算

収入		(単位・千円)		
項目	昭和63年度	昭和62年度	比較	
町税	247,422	234,298	5.6%	
地方譲与税	35,732	35,222	1.4	
利子割交付金	1,372	0		
自動車取得税交付金	23,909	19,731	21.2	
地方交付税	1,354,394	1,247,937	8.5	
交通安全対策特別交付金	1,170	1,469	△20.4	
分担金及び負担金	33,030	28,953	14.1	
使用料及び手数料	7,950	7,815	1.7	
国庫支出金	157,618	175,531	△10.2	
県支出金	289,302	267,111	8.3	
財産収入	44,340	49,599	△10.6	
寄付金	0	88		
繰入金	0	0		
繰越金	197,539	154,270	28.0	
諸収入	49,753	66,063	△24.7	
町債	247,700	294,400	△15.9	
収入合計	2,691,231	2,582,487	4.2	

住み良い町づくりに有効に支出

さてこの膨大なお金はどのように使われたのでしょうか。

えんぴつの図表に示したように、支出でもっとも大きいのは全体の約二四割を占める農林水産業費で、主に農道、林道、集落道の整備などに使われました。また次に大きな公債費は借入金の返済、土木費は道路の新設改良、除雪などに使われました。このほか、総務費は職員給与や財産管理など、教育費は小・中学校の運営など、民生費は社会福祉、老人・児童福祉など、衛生費は各種検診やごみ処理などに使われました。特に、建設事業関係では別表



支出		昭和63年度	昭和62年度	比較
議会費	62,894	62,031	1.4	
総務費	307,799	345,091	△10.8	
民生費	164,969	147,850	11.6	
衛生費	152,121	127,424	19.4	
労働費	3,424	3,112	10.0	
農林水産業費	606,744	573,809	5.7	
商工費	11,066	8,993	23.1	
土木費	361,500	260,710	38.7	
消防費	109,645	102,932	6.5	
教育費	245,445	221,003	11.1	
災害復旧費	38,103	118,074	△67.7	
公債費	418,460	395,624	5.8	
諸支出金	66,325	18,295	262.5	
予備費	—	—		
合計	2,548,495	2,384,948	6.9	

●昭和63年度主要建設事業の状況
(補助事業)

(単位・千円)

事業名	事業費	事業の概要
団体営農道整備事業		
坪倉地区	44,440	改良418m
深山地区	28,280	改良100m・舗装1,263m
深山Ⅱ期地区	27,270	改良814m
鞍骨地区	15,150	改良260m
杉森地区	8,080	改良360m
農道軽微改良事業		
沖田線・田代線改良舗装	24,543	沖田線 759.5m 田代線 249.8m
農村総合整備モデル事業		
津沢農業排水路	8,080	水路工266m
片越山本線改良	11,316	740m
田代線改良	4,986	312m
大吹川線舗装	1,935	111m
両前寺寺田線(湯出野地区)改良	9,033	349m
中祝沢線改良	25,807	橋梁上部工14.3m 改良197m
冷沢線舗装	4,857	299m
上里線舗装	8,143	534m
熊高沢線改良	13,958	388m
山崎線改良	5,434	123m
両前寺寺田線(寺田地内)改良	24,480	333m
鳥居坂線改良	7,757	橋梁下部工一式
多目的共同利用施設測量試験	4,040	調査・設計
第三期山村振興対策事業	43,533	八塩いこいの森整備
林道整備事業		
軽井沢1号線舗装	11,460	420m
荒沢川線開設	19,100	500m
牧山線改良	7,004	法面保護1,110㎡ 改良60m
町道新設改良事業		
西山線舗装	20,000	380m
金山線改良	42,000	改良240m・舗装340m
須郷田・跡見坂線改良	50,000	用地買収補償一式
袖山線防雪柵	11,700	168m
新町線流雪溝	18,500	333.3m
消防施設整備事業	7,626	防火水槽3基

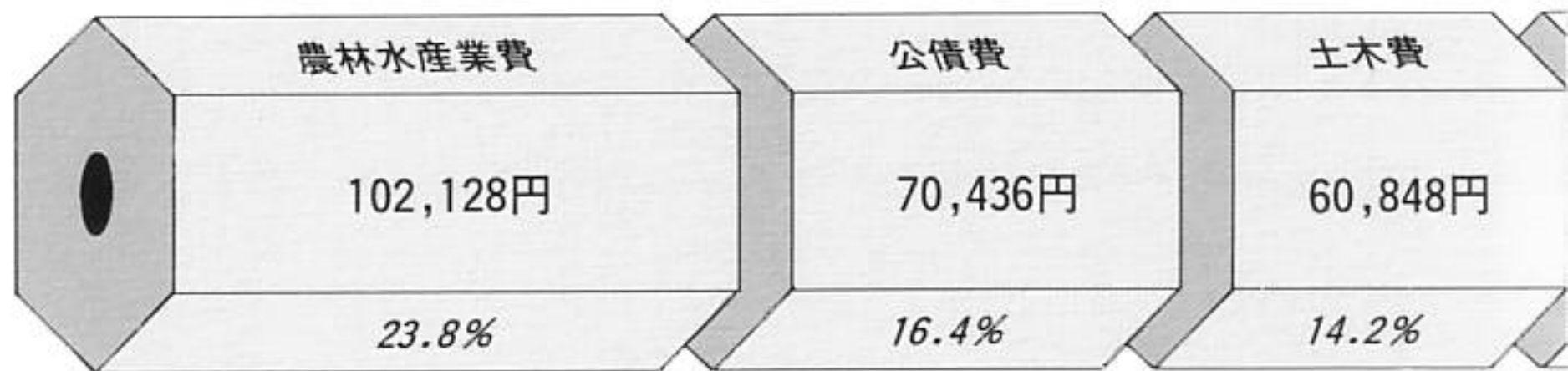
豊かな町づくりに

1人当たり町税の内訳

固定資産税	20,539円
町民税	14,474円
町たばこ消費税	2,983円
電気税	2,193円
その他	1,457円

いただいた、町民税、固定資産税などの町税は、収入全体の九・二割に当たる一人当たり四万一千六百四十六円で、前年度より二千七百九十七円(〇・七割)増えました。

また町債(借入金)は一人当たり約四万二千円で、前年度より約七千円(二四・五割)少なくなっています。



〈町単独事業〉

防犯灯設置事業	562	17基
台山緑地整備事業	1,875	ツツジ植樹
火葬場用地関連	7,337	
滝ノ下地区災害関連事業	2,515	迂回路整備
ザラメキ農道整備事業	3,845	法面保護
造林事業	18,767	拡大造林13.26ha 再造林100.56ha
町道新設改良事業		
善徳線改良	27,319	713m
高戸屋線舗装	2,402	153.5m
大琴下線舗装	1,987	141.47m
大台2号線舗装	7,442	531.08m
喰沢線舗装	17,572	330m
上里線改良舗装	3,681	68m
新町線改良	5,416	100m
後町線改良舗装	2,467	32.93m
老方後町線舗装	744	45m
消防施設整備事業	2,508	W造1棟33㎡
消防機械格納庫新設事業		
行政無線システム設置事業	12,132	
大琴小学校グラウンド整備事業	22,084	
公民館物置建築事業	3,580	W造66.24㎡
コミュニティセンター外構整備事業	6,753	老方館

昭和六十三年予算は道路整備など住み良い町づくりに有効に支出

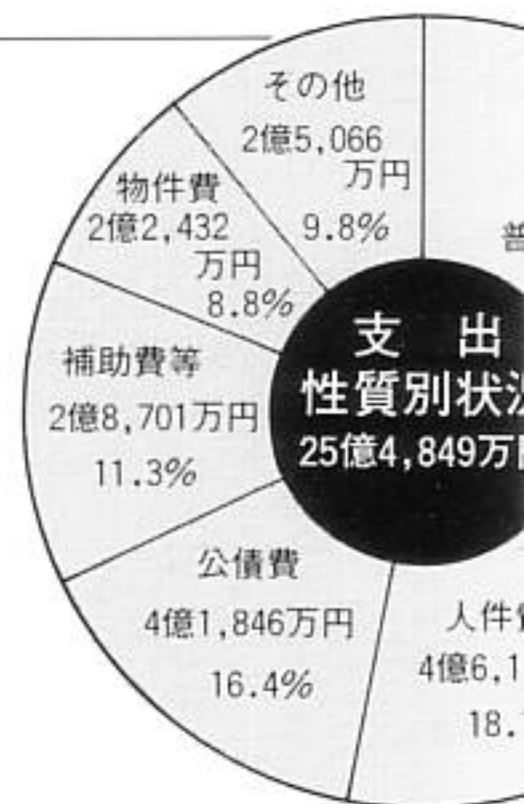


のように、道路整備を主に消防施設の整備、大琴小学校グラウンドの整備、八塩いこいの森の整備など、住み良い町づくりに有効に使われました。

●昭和63年度特別会計決算

(単位・千円)

会計別	収入	支出	差引残
国民健康保険	468,907	423,699	45,208
老人保健	292,650	292,250	400
黒淵診療所	2,116	2,114	2
簡易水道事業	146,552	133,301	13,251
特別養護老人ホーム	164,227	115,068	49,159
大平スキー場	5,795	5,733	62
玉米財産区	1,674	84	1,590



ぼくは小学三年生のころから新聞配達をはじめました。ぼくがやりたいといっただけではだめです。から、しばらくはイヤイヤやっていました。理由は朝早く起きなければならぬこと、雨が降っても大雪が降っても必ずやらなければならないということなど、たくさんあります。

梅雨どきや台風のとしゃ降りの時は、コートも服もびしょびしょにぬれてしまいます。しかし新聞だけは袋に入れて脇に抱え、絶対にぬらさないようにして持っています。配るまではそんなにぬれていなくても、ぬれた手でさわると新聞もぬれてしまいガツガツします。くやしいことに配り終わるとスカッと晴れることがあ

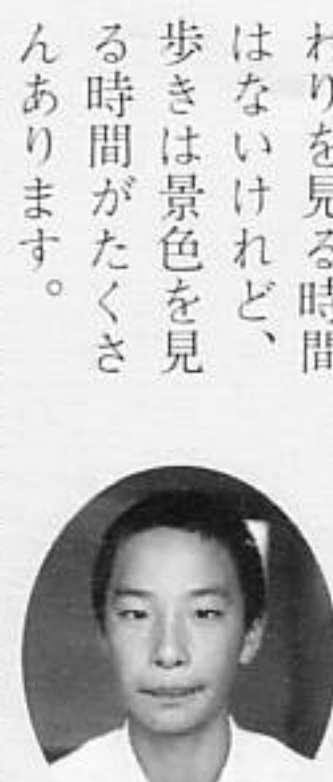
ります。でも、その時に虹が出ていたり、アジサイがきれいな色になっていたりすると何となくスキツとして、いい気分になります。冬は自転車に乗って新聞を配ることができないので、もちろん歩きです。自転車は動きが速く、まわりを見る時間はないけれど、歩きは景色を見る時間がたくさんあります。

一月一日には「元旦」と書かれた青い袋に入った、一部が二キロ以上もある新聞を配らなければなりません。特に寒い日は防寒具をたくさん着ます。そのため動きにくいので時間がかかり、いつもより早く

起きなければなりません。そのうえ手がかじかんで、新聞もろくに取れません。こんな時は暖かいスートのことを思い出し、近道をしたりしてなるべく早く終わらせようとしています。

新聞配達をやっている、つらいなど、おやつをくれる家もありません。それだけで新聞配達が楽しくありません。

思うと、やさしい人たちに見守られて幸せだなと思いました。中には「新聞配りなんて、よくやるなあ」という友達もいます。しかし今では新聞配達はぼくの仕事となっています。



東由利中一年・遠藤 仁くん

新聞配達

こともありました。もちろん楽しいこともありますが、少しがめつい話になります。月末になると、配っている軒数の分だけ給料がもらえます。これが一カ月の苦労の結晶なので、もらった時は本当にうれしいです。楽しいのはそ

こともありません。配達をしただけではありません。配達をしていると、地域の人から「おはよう」の声がかかったり、「ごころうさん」「がんばれよ」などの励ましの声がかかってくる時もあります。時々野球のボールやバナナなど、おやつをくれる家もあり

います。だつて喜美じつちゃんとき々夕刊配達してもん」という返答。本当に助かりました。この時ばかりは元氣印に感謝、感激で手を合わせました。

「おはよう」と、大きな声で二階から駆け降りてくる小学二年の喜美。今日も「元氣印」は元氣です。喜びを体全体で受け止め、表現するほど元氣の良い喜美。起床は毎朝五時四十分ごろ。おじいさんやおばあさんの手伝いで新聞配達。中一の兄が起きるころには、もうすでに配達が終わっている。兄の正喜は妹に尻をたたかれししぶ出掛ける始末。この様子を見ていとやはり元氣です。

今でこそ元氣に新聞配達をしているのですが、最初のころはおじいさんから毎朝のように「早く行

がつているものを無理にやらなくともと思いましたが、口に出してしまえばこれでおしまい。心を鬼にして、かわいそうでしたが、泣いても毎日続けさせました。そのおかげで、近所の人々からは「良く頑張るね。毎日元氣が良くて気持ちいいよ」と言われます。親としてもとてもうれしい気持ちです。たまに

そんな姿を見ていると、健康で活発で、背中に元氣を背負って歩いているようです。ですから体調が悪い時でも、喜美を見ているとすぐにでも直るような気がします。そして学校から戻ると、大きな声で「ただいま」という声。元氣印

は、そつと家に入ってきます。こんな時ばかりは、食欲旺盛な喜美も夕食そこそこキューバタンと眠りにつきます。こんな子どもですが、感謝感激したことが一つ。それは、お盆休みの時で、祖父母が留守のため夕刊を配達するところが出来なかったのです。ふだん私たち夫婦は勤めのため、配

達中にちよつとつまづき手首を骨折、いま新聞配達を休んでいます。しかし、これも元氣なしるし。元氣印はこれからますますと活発で、明朗に、そして女の子ですから、やさしさも加えて成長してくれることを望んでいます。



下小路・小松喜子さん

小学二年の長女は「元氣印」

行かない時などは「喜美ちゃんどうしたの：病氣」などと、心配してもらおうほどになり、人と人との出会い、ふれ合い、つながりと、喜美にとっては良い経験です。まずはあいさつから「行って来ます」と元氣に出掛けて行きます。

そんな姿を見ていると、健康で活発で、背中に元氣を背負って歩いているようです。ですから体調が悪い時でも、喜美を見ているとすぐにでも直るような気がします。そして学校から戻ると、大きな声で「ただいま」という声。元氣印

達区域を全く知らなかったのです。ところが、いつのまにか祖父と一緒に夕刊配りをしていたらしく、「喜美、配達する所全部知っているよ」と言うのです。私たち二人は驚いて「配る所ほんとに全部わかるか」と口を揃えて言ったので

す。「うん。だつて喜美じつちゃんとき々夕刊配達してもん」という返答。本当に助かりました。この時ばかりは元氣印に感謝、感激で手を合わせました。

そんなことがあって、日常のコミュニケーションが一番大切、全員が揃って話し合う時間はないが、親と子のふれ合い、このことが一番大切なことではないかと思わな

夏休みのある暑い日、母が「孝子、イモほりに行こう」といいました。「だまっていても汗が流れるようなこんな暑い時に、イモほりなんかできるか」と、独りごとを言いながら、私は、いやいや母と畑へ行きました。

太陽がカンカンと照りつけ、畑の上にはゆらゆらとかげろうさんも、はつきり見えるほどの暑さです。まだ何もしていないのに汗がジワジワと出てきました。「母さんのいじわる。こんな暑いときに、だれも好きこのんで仕事なんかしていないのに」と心の中で思いながらトラクタから下りました。母は、草やイモのつるを取りはじめました。私はクワで掘ることになりました。ドカッとクワを入れて、グイッと引く張ると、イモが



土のやさしさ

八塩小六年・長谷山孝子さん

つとくつ下を脱いで、素足で土の上に立ちました。何となく気持ち悪いような気持ちいいような気分でした。石の上に立つとゴロゴロして痛いところもありました。ドカッとクワで掘った黒い土が足の上にかぶさった時、ひんやりとして、何とも言い表しようのない、いい気分でした。

一むねがで、三むねもあと少しで掘り終わりそうなき、母が「いっぶくしようか」といいました。うれしくて手の痛みも、石を踏んでいる痛みも忘れて、トラクタの荷台の上で今とってきたばかりのスイカを、母はきれいなクワでグサリと割りました。私はその大きなスイカに顔をうずめるようにして食べました。

おなかいっぱいスイカを食べたから、また残りのイモ畑を掘りはじめました。足の裏に伝わってくる土の感触がとっても気持ちよく、私に応援してくれているように思いました。

「がんばろう」そう思って仕事をしていたら、ガラガラと流れる汗も何だか気持ちよく感じられ、いつの間にか「いやだな」という気持ちも、ふっ飛んでしまいました。大きなイモが顔を見せるたびに、何だか楽しくさえなってきました。最後の一株をグサッと掘り起こした時、思わず「やったあ」と、ばんざいをしてしまった私でした。

私が最後までがんばる気になったのは、あのひんやりとしたやさしい土に励まされたからではないでしょうか。今まで気づかなかった土のにおい、土のやさしさを感じ、土がありがたきものであるように思いました。土のおかげでイモも大きくなり、あのおいしいスイカも出来たのです。土にまみれて仕事をするのは、大変なことですが、でも人の心をやさしく、おちつかせてくれるように思えます。汗と土にまみれた一生。そんなのいいかもしれないな……と思いました。

家に帰り、夜にふかして食べたジャガイモの味は、私の汗のようにちよっぴり塩っぱくて、とってもおいしかったです。

東由利歴史散歩

「下村古来物語之事」から

根城館攻防のこと



横渡方面から根城館跡を望む

根城館は内館（現在の岩館）の出城の意味があったようですが、「下村古来物語之事」（元禄七年一六九四）に「根城館は下村殿御在城で、宿村の川向かいの根城内、屋敷数十三間（軒）あり。この城で仁賀保・庄内衆と戦いなられ候よし」とあります。

根城館は別の名を「鶴舞館」・「鶴館」とも言われましたが、築城の時人夫が誤って鶴の首を切り、羽毛が天高く舞い散ったという伝説からだようです。

根城館の上は現在水田になっていますが、東と南のすそを高瀬川

が流れて、天然の要塞になっており、西側は段丘状、北側は国道一〇七号線が通っています。数年前まで南方の突出部に空濠跡がありましたが、今は畑になっていました。国道の通っている北側山手も道がつけられる以前は空濠があったようです。

仁賀保殿と庄内衆が下村殿を攻めた根城館での戦いは、「館にこもる者共のうち、真木新右工門と申す者は鉄砲の名人だったようで、高瀬川を越えて幅野方向から来る敵の馬上の侍を射落とした。敵はその死んだ人を川下の田へ引き上げかついで行ったとあり、その侍

が庄内のかも（加茂）出身だったことから、その田のあざ名をかも田と言った。またこの戦いでは城のうしろより敵多勢攻めてきたので、城内の女達が石ころや餅つき用の臼まで転ばし、敵をあまた殺した由。そのほか城の内が強いので、敵は引き帰りの時、宿村・下吹村の穂田を刀で穂首をなぎ倒し滝沢（由利町）の方へ引いていった」などと記されています。

この根城攻めは庄内武藤氏が由利郡侵攻をし、打越地方を天正十年（一五八二）に征服していることとかわりがあるようです。



新しい町づくりを模索 住民大学がスタート

第一回住民大学が九月八日有鄰館で、約百人の町民が参加して開かれました。

この住民大学は、壮年を対象に地域づくりを模索してきた従来の「ふるさと大学」を改称したもので、今回は社団法人・あすの秋田を創る生活運動協会の県中央地区

さわやかに感動体験を发表 「感動の輪をひろげる心の交流会」開催

「感動の輪をひろげる心の交流会」が九月十二日東由利中学校体育館で、小・中・高生や町連合PTA会員、ことぶき大学生ら約六百人が参加して開かれました。

これは心の豊かな町民性を育てようと町教育委員会が四年前から開いているもので、今年は小・中・高生六人、社会人三人の九人が、心に残る人との出会いや日常生活で深く感銘を受けた出来事などをさわやかに発表、聴衆の胸を打ちました。



心に残った出来事などをさわやかに発表した「感動の輪をひろげる心の交流会」

住民大学を兼ねて開催しました。初めに、「二十一世紀を目指した・まちむらづくり」のテーマでフォーラムを行い、金浦町「白瀬中尉をよみがえらせる会」の渡部幸徳会長、蔵地区コミュニティ推進協議会の畠山昭雄会長、プライダルコンサルタントの沢井輝子さ



地域づくりについて意見を述べ合った第1回住民大学・中央地区住民大学

熱闘！48回でピリオド 第2回マラソン野球大会

町内の野球好きが大集合し九月十七日、第二回マラソン野球大会が台山グラウンドで行われました。組分けは従来チームの垣根を越えた、東西に分かれてのチーム編成で、午前六時十分にはプレーを開始。逆転劇を展開しながらノンストップで試合は進められ、プロ

野球顔負けの好プレー、珍プレーも続出。試合終了時刻の午後五時四十分には回が四十八回まで進み、結局四十九対四十八で東軍に軍配が上がりました。



心ゆくまで野球を楽しんだ第2回マラソン野球大会

ん（秋田市）の三人のパネリストが同協会推進委員の鈴木一彦氏の司会で発表しました。

この中で渡部会長は「若者には町や地域づくりを考え、目覚める『適齢期』がある。そのためには小さい時から、それぞれの町の誇れる『モノ』や『ヒト』をきちんと教え込む必要がある」と、畠山会長は八月に開いた「大いちょうまつり」を紹介し「初めての企画で不安は大きかったが、住民の協

力により大成功し、大きな自信となった」と述べました。

また、沢井さんは「若い男女の出会いを育て、嫁が来る地域づくりをもっと考えていきたい」と述べ、鈴木さんが「地域づくりは実践しかない。やる気と情熱をもっと広げよう」とフォーラムを締めくくりました。この後、KJ法秋田塾長の阿部正三氏が「地域社会の総合力を育てる」と題して基調講演を行い、会を閉じました。

献血ありがとう

8月29日・太字四百cc献血者

畑山美喜子	佐々木吉一	遠藤 紗織
佐々木奈穂子	畠山 忠志	阿部 里美
遠藤テツ子	巖石 文弥	小野 貴子
鈴木 博	伊東 健市	寅田 敏雄
佐々木日出夫	伊東 民雄	小野 佳子
畠山 祐子	小松 信記	亀山 洋樹
武田 玲子	佐藤 孝悦	佐藤 恵美
畠山 紀悦	石渡 博澄	小野 千春
佐々木雅廣	猪股 寿和	工藤加奈子
小松 育子	佐野 拓和	畠山真由美
小野寺貞子	小野 悟	畠山まき子
小松 操一	小松 与悦	渡辺 大芽
渡辺 仁	伊東 正志	小野 康広
畠山 楸	齊藤 俊和	鈴木 洋子
長尾 孝子	阿部 勲	伊東 博美
長谷山友子	小松 正二	小松多美子
大庭満寿子	遠藤 卓哉	佐々木美和子
佐藤 博敦	横山 富男	佐々木美和子
寅田タカ子	小松 富子	森 知恵
高橋 重保	丹尾 喜裕	工藤 裕美
佐々木信幸	小野 和	平野 剛
畠山 基保	高橋 進	小松 正照
遠藤 晃	高橋 和美	畠山 和朗
阿部 弘章	板垣 茂樹	小松 一元
工藤 昭義	佐藤 剛	三浦 優子

(敬称略)

あなたもテレビにでませんか NHK「ふるさとネットワーク」に出演中！

「開かれた放送局」を目指してNHK秋田放送テレビ局が、今年四月から「ふるさとネットワーク」の放送を始め視聴者に喜ばれています。この番組は自主企画を原則とした生放送番組で、本町でもすでに三回出演、対外的に町をPRしてきました。番組担当の住吉恵



「ふるさとネットワーク」本番前のリハースル風景（9/25）

畠山町長が ヨーロッパ訪問中

畠山町長が県町村会主催「ヨーロッパ視察研修」のメンバーとして、マドリッド、バーデン・バーデン、チューリッヒ、ロンドン、パリを、県内六町村長とともに九月三十日から訪問中です。帰国は十月十二日の予定で、それまでは畑山良一助役が職務代理を務めます。

小松さんに銀色有効賞

献血回数が三十回になった人に贈られる銀色有効賞が小松正二さん（下小路）に贈られました。小松さんは献血車が来ると欠かさず献血、しかも毎回「四百cc.献血」を実践されています。

50回の浅田さんが 献血功労者で表彰

献血回数が五十回を数え金色有効賞を受賞している浅田竹廣さん（大琴）が、献血功労者として日本赤十字社秋田県支部から表彰されます。表彰は十月二十三日の「第一回献血感謝のつどい」（秋田市）で行われます。



献血功労者として表彰を受ける浅田竹廣さん

ボツメキに駐車場とトイレ完成

ボツメキ水源池に駐車場とトイレができました。ボツメキ水源池は小公園として整備され、水が豊富なことからナベツコ遠足の適地として利用者が年々増えていますが、駐車場とトイレがなく、早期設置が望まれていました。このため町がシーズン前の完成を目指し今年七月に着工、



利用者に喜ばれている、ボツメキ水源池に完成した駐車場とトイレ

思いやりは きっと返ってくる 共同募金



10月1日～12月31日

身近な犯罪を防ごう

車だけに限らず、わたしたちの日常生活を脅かす「空き巣」や「忍び込み」などの犯罪に遭わないように、毎年10月11日から20日まで、全国防犯運動が行われます。この運動をより盛り上げていくため、今年は、10月11日が「防犯の日」と定められました。

駐在所だより

●全国防犯運動●

昨年 盗まれた車は3万4千台

車を盗まれた！警察に届けを出し、すぐ見つかると思っていたら、その車が銀行強盗に使われてしまった…。最近、こんなケースが増えています。

昨年の刑法犯罪は164万件を超え、戦後最高を記録しました。盗難に遭った車は、この年約3万4千台でした。この盗難車が他の犯罪の逃走手段として使われるケースが増加傾向にあります。

盗難車は、銀行などの金融機関を狙った犯罪や、「テロ・ゲリラ」事件といった凶悪な犯罪に使われることも十分に考えら

車のドアロック忘れずに

車を盗まれたうえ、犯罪にまで使われてしまったということがないように、車を持つ人は、次のような車の管理に十分気をつけたいものです。

☆盗難車のほとんどは、キーが付けっ放しになっていたために盗まれたものです。ちよつとし

た用事をすませただけだから、といて、無造作に人気のない駐車場や路上に車を止めないことが大切です。

☆車を離れるときは、必ずキーを抜き、ドアをロックしましょう。また、自宅近くの駐車場や路上の車のまわりに不審な者がいたとき「どうしました」と声をかけることも犯罪防止につながります。

み

ん

な

の

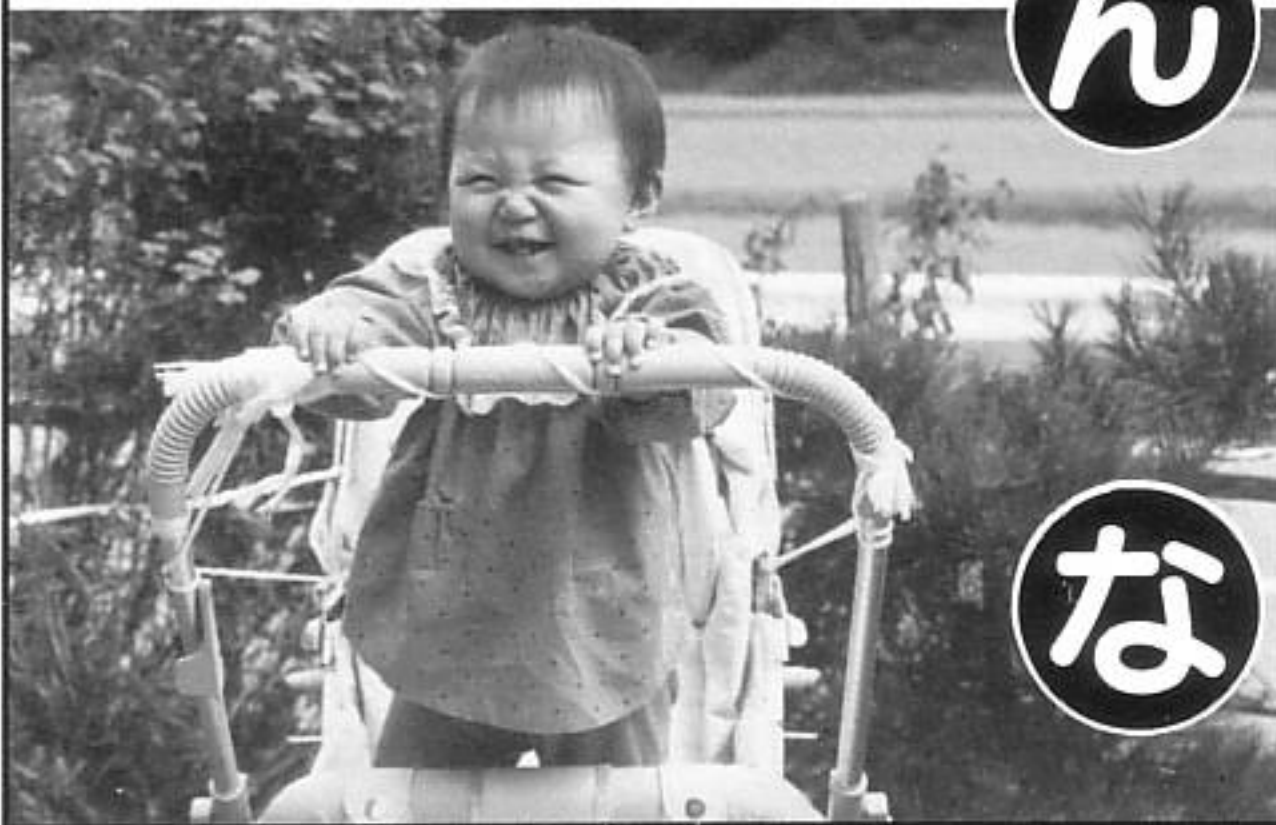
ひ

ろ

ば



山崎・小松智美ちゃん(10ヵ月)
忠孝さんと智賀子さんの長女
「はなカゼ程度で、大した病気
もせず元気いっぱいです。人見知
りせず誰にでも愛さようを振る舞
います。おじいちゃんが大好きで、
いつもだっこしてごはんを食べて
いる智美です」と、智賀子さん。



東由利の文芸

ゆりかご句会(九月例会から)

◆孫子連れ祖を語りて流燈す
鈴木要(沼)

◆遠き嶺近く展がる稲光り
小野貞子(蔵新田)

◆流燈や淀みに一つ影をおく
阿部澄子(蔵)

◆いづれ来る我が身も乗らん燈流
す
小松徳蔵(湯出野)

◆稲妻や目前に迫る山の峰
遠藤トミ子(小倉)

◆稲妻や帰路の穂波を照らしけり
菊地常作(湯出野)

◆流燈の流れ着く果て浄土かな
高橋ヒデ子(横渡)

◆稲妻にまぐさやる手を休めけり
小笠原トミ(蔵新田)

◆いなびかり太く息吐く孕み牛
小松メサ(下小路)

◆流燈のひとつはいくり(礁)につ
かまりぬ
阿部義直(沼)

◆流燈や眼裏に笑む父の顔
小笠原亮子(蔵新田)

◆流燈や飛鳥泊りか佐渡までか
佐藤正義(湯出野)

◆久し振り故郷の流燈盛るこの姉
妹
小松慶治郎(高戸屋)

フッシュ

秋田信英に、高校卒業と同時に
入社して三年目になります。
先日、成人式を迎えたのですが、
結果として自分というものを振り

返るきっかけになったと思います。
自分の趣味は、スポーツ全般で
す。最近極真空手を始めました。
どちらかというと体を動かす事が



小野 弘喜くん(21歳)
上里・秋田信英勤務

好きなアウトドア派ですね。だか
ら旅なんているのも好きです。良
く車でいろんな場所に行きますし。
若い時は何でもできるし、自分自
身好奇心旺盛だから今のうちにた
くさんやっておきたいですね。し
っかりとした足場もありますしね。
やりたい事がありすぎて困ります。
学生時代は少林寺拳法をやって
いました。何があってもという感
じでしたね。それがきっかけで最
近今まで生きてきて最高の感動も
体験しました。言葉にしても伝
わらないのが残念ですが、自分
はその感じ、大切にしたいので
す。理想はかとうかずこさんです。
出来ればそんな人と出会える場所
が欲しいですね、この町にも。も
しかしたら、それとは違う発展的
なものも生まれる可能性があるから。

古き心を伝える
ふるさとに
生きる詩

おらえのメンコどき

桂台・阿部ノブエさん(83歳)
「おらえのメンコどき誰かもたア
誰かもネエたて一人して
ヤヤココ ヤヤココヤヤココナ
へ寝たら鼠にひかれるし起きたら
おたかにさらわれる



昔の小学校には、猫の手も借り
たいほど忙しい稲刈りのころにな
ると、小さな子どもを背負った生
徒がたくさんいました。子どもが
泣きじやくると先生も生徒も皆で
あやしたものでした。一日中子ど
もの面倒をみて、夕暮れになりよ
うやく子どもを肩から解くと、暗
い台所の板の間に寝ついてしまい、
昼中にあやした子守唄は、そのま
ま自分の子守唄になるのです。
昔はこうして皆育ったものです。



子からホンネ本音親から

大琴小四年・鈴木美沙さん

私のお母さんは、ソロバンの先生をしています。ソロバンをしているときは、おつかないけれど、家ではやさしいです。学校では料理クラブに入っているの、日曜日にお母さんとホットケーキとか、いろいろ作っています。

お母さんは料理がうまいので、私はお母さんのように料理がうまくなりたいです。お母さんをお願いは、今のままのお母さんでいてくれたらいいなあと思います。



袖山・鈴木綾子さん

六人家族の中で唯一の女同士なので、友達のような相手です。

良く気が付くし、お手伝いも嫌がらずにやってくれます。また小さな子の面倒もみてくれるし、友達とも仲良くやっているようで、それが一番うれしいです。

これから少しずつ大人になっていくのですから、小さいことでもいいやがらずに、コツコツとやるような根気の強い人になってもらいたいです。



ふるさとを想う 19

優しさに乾杯!!

千葉県松戸市竹ヶ花二三八一八〇五

鈴木 晟子さん (旧性国技)

東由利は亡くなった母の故郷です。その縁で、終戦をはさんだ二年ほどを、私は蔵に疎開しており、東京に生まれ育った私には、いわゆる故郷というものはないので、そのイメージは心を躍らせながら山菜を摘んだ小田山、そして、はじめて泳ぎを覚えた高瀬川です。はるかに過ぎた子ども時代への郷愁とともに懐しく思い出されるのが、東由利の山河であり、村のたたずまいでした。

この夏、思いがけず私の夫(講談社勤務)が成人式の記念講演という大変な依頼を受け、なんと四十年ぶりにこの地を訪れました。変貌は想像を越えていました。きれいに舗装された道路がどこまでも延びて、その昔可愛がってくれた中ノ沢の伯母に逢うには、半日の余をかけて歩き通さねばならなかったのに、今はわずか十分。運転は、孫もいる従姉妹や又従姉妹のママさんドライバたち。女

性の免許所持持年令の高さでは、都会地より絶対上です。私が通った蔵小学校は統合されてすっきりした老人ホームに、その他野球場にテニスコート、果てはカラオケバーまであって、村はすっかり街になっていました。おそらく日常の生活革命は、確実に進められているのでしょう。それでいてこの町には、昔ながらの優しい人間関係がしっかりと残っていました。親戚の人たちが次々に開いてくれる小宴会、老人が大事にされる家庭、私のために集まってくれた旧友たち、どこも優しさでいっぱいでした。

それらは、昔と変わらない幼なじみの山や河とともに、私の心を温かく満たしてくれたのでした。

みんなの健康

エイジングケア

肌荒れを

防ぎましょう

空気が乾燥し、気温が低くなるこれからは、肌のトラブルに悩まされる人が多くなります。

皮膚は、表皮の一番下にある基底層というところで作られ、次第におしあげられて最後は表面からはがれ落ちます。周期は約二十八日、この新陳代謝がうまくいか



なくなると、肌が荒れてきます。

冬になると肌がカサカサする、つまり、新陳代謝がスムーズにいかなくなる原因のひとつは運動不足です。

冬は、ともすれば部屋に引きこもりがち。運動が不足すると血液の循環が悪くなります。皮膚は、心臓から送られた血液が一番最後にやってくる場所です。循環が悪くなると、その影響も顕著に表れます。つとめて体を動かし、夜はゆっくり入浴して、新陳代謝

の促進を図ってください。

食事面では、栄養が偏らないよう、たんぱく質、炭水化物、脂肪、ビタミン、ミネラルをバランスよくとるように心がけてください。

とくに、新陳代謝の活性化を助ける植物繊維、肌の潤いを保つ皮脂分泌の調整をするビタミンB₂は、たっぷりとるようにします。ビタミンB₂を多く含む食物には、レバー、牛乳、チーズ、アジ、サバ、野菜類では緑黄色野菜、豆類などがあります。糖分は、とりすぎると皮膚の感受性を低下させ、老化を



早めますから気をつけてください。ストレス解消も肌荒れ予防には欠かせません。ストレスがつのると自律神経が乱れ、内臓の働きが鈍って、結果が肌荒れとなって表れます。ストレスは、皮膚も含めた体のすべての健康にとって大敵なのです。

外から施す肌荒れ防止法として効果があるのはマッサージ。指圧を組みあわせて行うと血行がよくなり、新陳代謝が活発になります。(保健婦・伊東志津子)

町民カレンダー

- 4・インフルエンザ（八塩小・みどり保育園）
- 6・（高瀬小）
- 9・フレッシュ教室（老方館・13時）
- 11・インフルエンザ（永慶保育園）
- 13・（大琴小）

- 16・乳児健康相談（有鄰館9時半）
- 18・インフルエンザ（東中）
- 22・ふるさとウォークラリー（予定）
- 23・子宮がん検診（追加・有鄰館13時）
- 25・三歳児検診（有鄰館13時）
- 26・機能訓練教室（有鄰館13時）



違反建築防止週間
(10月11日～17日)

9月★町のミニ統計

（8/1～8/31）

- 人口（ ）は前月比
- 男 2,892人（△7）
- 女 3,025人（△3）
- 計 5,917人（△10）
- 世帯数 1,435戸（△2）
- （ ）は1月からの累計
- 出生 7人（44）
- 死亡 6人（44）

- 転入 2人（57）
- 転出 10人（117）
- 結婚 0組（6）
- 離婚 1組（7）
- 火災 0件（4）
- 救急車出動 15件（67）
- ごみ処理量 43t（298）
- 交通事故 1件（5）
- 死者 0人（0）
- 傷者 1人（8）
- 飲酒運転 0人（1）
- 酒気帯び 0人（10）

ふるさと探訪の絶好の機会として人気の「ふるさとウォークラリー」が今年も十月二十二日に行われる予定です。一回目は矢島町、茶屋長根、二回目は白沢トンネル、大森町保呂羽山、三回目は雄物川町二井山、祝賀でした。主催の公民館では現在コースを選定中です。決まり次第チラシでご案内しますので、多数ご参加ください。

町民の声を町政に！
町長の面会日 今月 20日

- ごめい福をお祈りします
- 8/30 佐藤 秀二（63・孝子・夫）新町
- 8/31 遠藤 秀夫（64・京子・夫）五海保
- 9/3 長谷山ハルヲ（80・専太郎・妻）舟木
- 9/3 石渡ナカエ（81・フタミ・義母）蔵
- 9/13 小野秋次郎（76・チヤ・夫）蔵新田
- 9/14 小松 初一（67・キヌ・夫）宮ノ前
- 9/17 工藤 市雄（62・トシ子・夫）高村
- 9/20 佐々木勝明（47・田鶴子・夫）大琴

編集室から

▼NHKテレビ「ふるさとネットワーク」に九月二十五日三回目の出演をした。今回は町のきのこ採りの名人、菊地三治郎さん（上通）に登場していただいた。菊地さんはシーズン中はほとんど毎日きのこ採りに出掛け、マツタケ、シシタケ、マイタケなどを筆頭に採る量もトータルで数百キロという超人だ。実はこの菊地さん、年齢が七十三歳というから驚く。足腰がしっかりとっていて顔の血色や肌のツヤもよく、とてもそんな歳には見えない。若さの秘訣は「もちろん山菜やきのこ採りで体を鍛えていることもあるが、その鍛えた体を冬の間鈍らせないことだそう」だ。スポーツの秋。にわか運動では菊地さんのような元気な体はつくれないだろうが、菊地さんの精神を見習い少しでも多く体を動かす習慣を身につけたいものである。



郷土の野草

文・写真 小松忠正



オカトラノオ

（サクラソウ科）

日本全土、朝鮮半島、中国までも広く分布する多年草で、おもに日当たりのよい丘陵地帯や山すそなどに生え、花の形がトラの尾に似ているのでこのようにいわれます。長い地下茎があり、茎は殆んど枝分かれせず一層以上にもなります。葉は長だ円形で互生し七月上旬写真のような傾いた10～20センチの花穂をつけ白い花を咲かせます。（写真石高から大吹川への路傍で）湿地に生えるものをヌマトラノオといいこの草よりやや小形です。

善意

町社会福祉協議会にご芳志として佐藤秀夫さん（新町）、長谷山一恵さん（舟木）、石渡フタミさん（蔵新田）、小野泰子さん（宿）からそれぞれ金一封が届けられました。ありがとうございます



町民カレンダーピックアップ

戸籍だより

（8/21～9/20届出・敬称略）

●お誕生おめでとう

- 8/20 八島 優（盛孝・長女）黒淵
- 8/31 畠山 愛美（由美子・長女）上通
- 8/29 小松 真美（正勝・長女）田代
- 9/8 佐々木駿人（静八・長男）大琴
- 9/10 畑山 和則（忠夫・長男）下吹
- 9/4 小松 平栄（新町）
- 9/4 宗 昭子（東京都）

第3回町産業文化祭

（日程）

- 11月2日（木）会場設営、搬入、審査
- 3日（金）同
- 4日（土）一般公開
- 5日（日）一般公開、授賞
- 6日（月）会場撤収、搬出

（会場）

朋楽荘、公民館、有鄰館、健康増進センター

（内容）

展示部門、催事部門（ステージ発表、映画会、俳句会、ゲートボール大会など）、出店部門（食堂、物産即売ほか）
※詳しくは後日チラシを配付。